

令和7年度 第二回 芳川小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 2025年7月7日(月) 13時30分から15時20分まで
- 2 開催場所 芳川小学校 CS ルーム
- 3 出席委員 犬居和賀代、林容子、佐藤祐輔、海老名俊樹、鈴木麻里、前島杏里
- 4 欠席委員 鈴木幸彦
- 5 オブザーバー 袴田唯之(南陽協働センター)
- 6 学 校 結城知則(校長)、大石智香子(教頭)、鈴木由香(CS 担当教員)、
内田由佳(CS ディレクター)
- 7 傍 聴 者 なし
- 8 会議録作成者 CS ディレクター 内田由佳

司会から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、海老名委員が議長を務めることを申し出、全員異議なくこれを承認した。

9 協議事項

- (1) 子供たちの主体性を高めるために
- (2) 学校評価アンケートについて
- (3) その他

10 会議記録

司会の大石から、委員総数7人のうち6人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

11 熟議

- (1) 子供たちの主体性を高めるために

学校より主体性についての取り組みを紹介(スライド、口頭での説明)

☆くすのき→縦割りで意図的なグループ活動。カレー作りなど

☆1年→学習習慣を身に着けさせる。グループ活動がすぐできるようになっている。ひとり学び、朝顔の観察では、〇〇のためにという視点を持たせる。相手を意識して話し、反応できる。聞くことが課題。

☆2年→月の目標を決定し、意欲的に活動できる子が増える。

☆3年→係でイベント企画、実行する。総合学習で調べたい内容について知っている人を探し、インタビュー。主体性が見られる。

☆4年→学年リレー大会の企画運営。8の字飛びチャレンジ等。チャレンジする場面を提供。課題として、勝敗がつくともめる。ツルレイシの学習。教室で種まき、発芽、そして屋外で育てる。自分たちのツルレイシだと意識させ、水やり、草取り、他学年の草まで自主的に取っている。きれいになるのがうれしく、役に立っている感覚。

☆5年→運動会で僥倖種目の綱引きは子供たちが運営。必勝法を調べたり、戦法を考えたりした。30分間回泳の意義、気持ちの持って行き方に工夫が見られた。自主的に練習に取り組むようになった。

☆6年→算数、教師主導ではなく、子供主導で授業を行う。課題に対して自分で考えたり、グループで話し合ったり、先生にヒントを乞うなど、どこまでわかっているかをお互いに言い合える。よい学習集団となっている。

・よい取り組みの数々が説明からよくわかった。今後これを普通の事として続いていくとよい。自分自身も感化されチャレンジしようと思う。皆の主体性がすごく伝わって来たこの3か月。具体例として、登下校地下道の不通時に、主体性を持った保護者が奔走し、子供同士も今日は地下道を通れる、通れない、という情報を共有し、手際良く行動していたことに感動した。また、今朝のことだが、登校をしがって泣いている子を上級生2人がなだめていた。とりあえず、「教室まで行こうよ。」と、導いていた。自分たちで決めて行動している場面を多く見た。(佐藤会長)

・(学校側の説明について)きめこまかく先生方からの具体的なイメージ、説明をいただきありがたい。何のためなのか、と目標を持たせ、意識させていくと、6年生になって授業を自分たちでできる。縦割りでやると、人前に出られる、役に立ってうれしい、などの感覚をもっているのは、将来にむけて大切な力となる。総合の授業で自分のテーマについて、必要な情報を持っている人から知識等を引き出す、というのもすばらしい。(林委員)

・ボランティアサイドでは、「ボランティアの手引き」を改定した。主体性をひきだすような関わり方を加えた。家庭科では、今年の子供たちは、一旦諦めても、再度チャレンジする傾向があるように感じる。目標や手段などについて具体的に知りたいことを述べてくれる。鼠野から登校のお手伝いを歩きでしてくれる方がいて、50分も歩く。その方から様子を聞いたのだが、登校班の高学年の子が、安全な場所を見つけて、給水タイムを3度設けてくれる。主体的に動いてくれている。(前島委員)

・自分だけではなく仲間も主体的に動けるようにしていかなければ、と自分も思う。授業で、インタビューを受け、お礼のお手紙をもらった。「自分も将来、民生委員活動をしたい」、というお手紙に感動した。(犬居委員)

・主体性が具現化され、内容がよりわかりやすくなっている。他の学年の草まで自主的に取る4年生はすばらしい。主体的に動いたことを発表する機会があるとよい。主体性が見られたときに先生からほめられれば良い事例として、人としての評価の対象になっていると感じられるのでは。失敗こそしてほしい、これが次の学びにつながる事が大事。得意なことを主体的に発表するのもどうか。「小さな得意」は誰にでも潜在している。(麻里委員)

・「なんでもチャレンジ大会」が30年前にあったが、すごく楽しかったと娘が言っていた。(林委員)

・「ちゃれらん」(チャレンジランキング)もよいのでは。(前島委員)

・自己肯定感が伸びる。失敗こそ大事。失敗から学ぶ。学校で育てている野菜が暑さでやられたのなら、米の不作と関連があるかなどの学びにもつながる。(犬居委員)

・成功体験だけを追い求めてもいけない。失敗から前向きに。(林委員)

・失敗したときの声掛けも工夫が必要。(犬居)

・水をあげすぎて自分の苗が枯れてしまった2年生に担任の男性の先生が、どうすればよかったか、、、と一緒に考えていたことに感心した。(前島委員)

・「勝敗がつくともめる。」という課題が上がっていたが、勝敗を競う場で、負けることが大人になるに連れて多くなる。負けることが悪いことではない。負けは積み上がる。競争は絶対になくならない。社会の中でどう生きぬいて行くか、という自分との折り合いを身に着けるためのアドバイスは必要。3年の調べ学習で、誰かに聞く、とあるが、ボランティアにきくのもいいのでは。(海老名委員)

・以前、誰かに聞く学習で、近所の住職に話を聞きに行く授業があった。そういう授業があるのか。(麻里委員)

→今後の授業でそのような学習はある(学校)

(2) 学校評価アンケートについて

学校から、昨年度と同じように重要度、達成度についての説明があった。

☆前年度は教員と児童は年2回、保護者は11月に1回実施。今年度は全員1回とする。内容は充実させる。

教員には行事の都度、振り返ってアンケートを行っているため、複数回実施しているのと同程度の充実した結果が得られる。

・1回で良いと思う(麻里委員)

・従来のは答えにくいところが多い。4択で答えにくい。あいまいに答えていた。(前島委員)

・個人が特定されていると感じると、本音を書かない人もいるのでは。(麻里委員)

・学校の先生の言葉なので、抽象的で理解するのに苦労する。(麻里委員)

・質問はわかりやすいほうがいい。(前島委員)

→比較経過をするために連続して3年同じにしている。(学校)

- ・子供用のものも設問がわかりづらい。(麻里委員)
- グランドデザインの3項目を意識している。(学校)
- ・教員なら理解できるが、一般の保護者だと難しい。(海老名委員)
- ・設問が多く、途中で疲れる。(佐藤会長)
- ・質問をコンパクトにしてもらいたい。(海老名委員)
- ・回答率はどの程度か。(佐藤会長)
- 他校の例ではあるが、保護者の回答率は、80%だったが、残りの20%の方に向け、紙媒体でQRコードを追記し、質問事項を掲載したところ、ほぼ回答してくれた。(学校)

(3) その他

- ・朝、東門のそばの草がはみ出ている赤ポールの内側を通れない。また、桜の枝が公道に出すぎている箇所があり、宅配トラック等が当たるのでは。(佐藤会長)
- ・放課後児童会と小運動場の間の草が生い茂っている。管轄はどこなのか。(犬居委員)
- 学校の管轄。(学校)
- ・校内掲示物で危険マップを作った。学校の歴史についても調べているが、楠の樹齢についてわかる人がいるか。芳川小のキャラクターは昔にもあったか教えてほしい。(前島委員)

12 報告

(1) 雨天時の送迎について

- ・苦情電話がなくなった。
- ・改善されている

(2) 研修会の報告

- (海老名委員より) 資料により説明
- ・丁寧にまとめていただきありがとうございました。(全委員)

(3) その他

- ・来年度の運動会を平日に実施となる説明
- ・学校支援コーディネーターより、ボランティア活動報告
- ・協働センター

調べ学習で、知っていそうな人を見つけてインタビューすることは良い。チャレンジをたくさんすると失敗にもたくさん出会い、振り返りができて成長につながる。(海老名委員の)研修会の報告も今日のテーマに沿っていて良かった。

13 連絡

- ・令和7年度第3回の協議会は、2025年7月30日(水)午前10時から6年1組の教室他で開催する旨の報告があった。
- ・次回議長は、前島委員が務めると申し出、全員異議なく承認した。